

(社)全日本鍼灸学会
平成 24 年度 第 2 回理事会 議事録要旨

I. 開催の日時及び場所

日 時：平成 24 年 7 月 29 日(日) 午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
場 所：日本鍼灸会館 2 階講堂（東京都豊島区南大塚 3-44-14）

II. 議事の経過要領および結果

司 会：事務局長 福村 昭
挨 拶：会 長 後藤修司
議 長：会 長 後藤修司

議事に先立ち、後藤会長から挨拶があった。

【報告事項】

1. 各部中間事業報告（平成 24 年 6 月～平成 24 年 7 月）

1) 事務局

福村事務局長から資料に基づき報告があった。公益法人移行に関して、申請手続きを電子化するよう要請されており、現在その作業を進めていることが報告された。8 月 4 日に定款等改正委員会にて申請内容を確認し、8 月 6 日に申請予定である。

2) 財務部

齋藤財務部長から資料に基づき報告があった。正味財産増減計算書総括表において通常総会費が予算超過となっているのは資料の発送費、印刷代の増加によることが説明された。

3) 学術部

篠原学術部長から資料に基づき報告があった。第 61 回大会において抄録、参加証の発送が遅れた件については原因を調査しており、今後の対応について後日報告することが説明された。

3) 研究部

古屋研究副部長から資料に基づき報告があった。鍼灸医療総合文献データベースを会員に周知するため、学術大会時の業者展示場に参加者が自由に触れる PC を設置するといった方策を協議していることが説明された。

福田学術副部長から、データベースに関して現在は RCT 論文翻訳と、その評価レポートを日本の鍼灸師に対して提供しているが、研究部としてその先の目標はあるのか質問があった。それに対して古屋研究副部長から、今までは情報をまとめて、国内で分かりやすい形で紹介するというスタンスで行ってきたが、今後は知らしめるというところから一歩進んで学会としてどう活用していくのか、学会の方向性にも関わることなので、関係各所と相談しながら新メンバーで検討していきたいとの回答があった。それに対して福田学術副部長から、せっかく海外の RCT を集めているのなら、ガイドラインを発信できるところまでできれば、医師や患者への説明に活用できるため、人的・予算的にも難しいけれども検討してほしいとの発言があった。また、公募研究の中間報告会を文字ベースではなく、理事会などで行って欲しいとの要望が出された。それに対して古屋研究副部長から、前向きに検討していきたいとの回答があった。

清水広報部長から、データベースに関するアンケート結果にもあるように、検索結果と J-Stage を関連付けるなどして全文をネット上で閲覧できるようにして欲しいとの要望が出された。古屋研究副部長からは、データベースでは要旨を紹介し、現時点では全文閲覧できるところまで進んでいないが、今後の検討事項にしたいとの回答があった。

最後に後藤会長から、国際シンポの開催のあり方についても研究部で検討してほしいとの要望が出された。

4) 編集部

坂口編集部長から、資料に基づき報告があった。また、新副部長として古屋研究副部長が兼務することが発表された。電子投稿・査読システムについて無料で利用できる J-Stage の電子投稿システムを利用申請するためには、年間 50 編程度の投稿が必要となるため、現状では難しい状況である。他のシステムと個別契約する方法もあるが、費用がかかることが説明された。

5) 組織部

安藤組織部長から、資料に基づき報告があった。

6) 国際部

若山国際部長から、資料に基づき説明があった。NCCAOM から依頼のあった日本における教育カリキュラムについては、現在会長の元で作成作業が進められており、素案ができた段階で理事会に諮ることとなった。

7) 広報部

清水広報部長から、資料に基づき報告があった。

以上、了承された。

2. JLOM 委員会報告

東郷 JLOM 関連委員会委員長が欠席のため、後藤会長から資料に基づき報告があった。

3. 認定委員会報告(平成 24 年 6 月～7 月)

鳥谷部認定委員会事務局長から資料に基づき報告があった。

4. 第 61 回学術大会開催報告

津田中部支部長から、資料に基づき説明があった。

5. 第 62 回学術大会準備報告

福田学術副部長より学術大会（九州大会）の準備状況について報告があった。小川副会長から、監事の交代により、大会監事を野口栄太郎先生から妹尾匡躬先生に変更するよう指摘があった。

6. 会長報告

後藤会長から、オバマ政権が打ち出した全ての医療保険に鍼灸を導入すべきだという法律が合憲であるとの判決が、アメリカ最高裁において出されたことが紹介された。

また、国民のための鍼灸医療推進機構の代表である阿部正俊前参議院議員から趣意書が出されたことが報告された。

7. その他

1) 新副部長について

小川副会長より、研究副部長として山口智先生、広報副部長として三浦洋先生が就くことが発表された。

2) グランドデザイン検討委員会について

津田グランドデザイン検討委員会委員長より、理事会に先だって第 1 回グランドデザイン検討委員会が開催されたことが報告された。委員は津田昌樹、福田文彦、山下仁、三浦洋、粕谷大智、小野直哉、波田康、吉村治美の 8 名で、来年度末を目処にビジョン策定と指針策定をめざしていく方針について説明があった。

3) (公社) 日本鍼灸師会全国大会について

山口研究副部長から、10 月にさいたま市大宮区において開催される全国大会の告知があった。

続いて、全体の質疑応答を行った。

若山国際部長から認定制度について、前回の理事会において認定基準の見直しについて言及があったが、個人的にはハードルを少し高くして、その認定を持っていることの意味合いを上げていくほうがいいのではないかと思う。専門医の認定制度のような筆記試験や面接試験の導入を検討してはどうかとの要望が出された。金井参与から会員に対して認定制度についてのアンケートをとってはどうかとの提案も出され、それを含めて認定委員会にて検討することとなった。

次に清水広報部長から、認定制度においても関わりのある日本統合医療学会について、関連団体として本学会 HP とリンクするなど、今後検討していきたいとの認識が示された。

以上、報告事項について全て了承された。

【審議事項】

1. 第 3 回国際シンポジウム経費の補填について

古屋研究副部長から、第 3 回国際シンポジウムにおける収支について、最大 60 万円程度の赤字となる見込みであることが報告され、赤字分に対する補填について審議を行った。審議の結果、赤字

分に対する補填を行うことが賛成多数で承認された。赤字額が確定しだい持ち回り理事会にて研究部から報告を行う。

2.WFAS への報告書案について

若山国際部長から、2013年に予定されているWFAS執行理事の改選の際に参考とするため、各加盟学会の状況について報告するようWFASから要請がきており、「鍼灸の発展における当学会の役割」を作成したことの報告と、そこで使用する最新の画像の提出依頼があった。また、学術大会のテーマの英訳に際し、事後に各実行委員会に対して了承を得ることが難しいため、今後は学術大会のテーマを日本語・英語両方作成してほしいとの依頼が合わせてあった。審議の結果、「鍼灸の発展における当学会の役割」について確認の上、訂正・追加があれば8月中に若山国際部長まで連絡することと、学術大会のテーマを日・英両方で作成することが賛成多数で承認された。

3.学会 HP 会長挨拶文の修正について

清水広報部長から、学会 HP での表現を修正したいとの要望があった。審議の結果、「鍼灸の学術団体として文部科学省に認定された唯一の法人格を持つ」ということと「日本学術会議の協力学術研究団体」であることを表現に盛り込むことが賛成多数で承認された。

4.抄録号の標記について

坂口編集部長から、今年度から抄録号に巻号がつかなくなり、J-Stageの閲覧時にいつのものか分かりにくくなることが予想されるため、抄録号には「○巻別冊（抄録号）」と標記したいとの提案があった。審議の結果、今後抄録号には「○巻別冊（抄録号）」と表記することが賛成多数で承認された。

5.WPRIM Jへの収載申請について

坂口編集部長から、Medlineへの収載はかなり難しい状況であることが示され、WHOが母体となるWPRIM Jへの収載申請の提案があった。ただ、申請するためには、前向き臨床研究を行う場合にプロトコルを事前に登録してから研究を行う臨床試験登録公開(CTR)を投稿規程に含む必要があり、その可否についても合わせて審議を行った。審議の結果、8月末に年に1度の審査があるため、CTRの追加が承認されたことを明記した上で申請を行うことと、11月の理事会に投稿規定の素案を編集部が提出することが賛成多数で承認された。

審議の中で、すでに研究に着手している場合の経過措置について考慮することと、倫理委員会を持つ組織に属していない開業鍼灸師等が研究登録できるよう学会に倫理委員会を設けるべきではないかとの意見が出された。倫理委員会の設置について、現状は倫理委員会を持つ組織との共同研究の形を勧めているが、研究部において検討することとなった。

6.第62回学術大会講師料について

福田学術副部長から、実技セミナーをご担当いただく首藤傳明先生の講師料について、今までの業績等を勘案して1等級上げてお支払いしたいとの要望が出された。審議の結果、講師料を1等級上げることが賛成多数で承認された。

7.東北大学からの震災関連資料提供依頼について

後藤会長から、資料に基づき説明があった。審議の結果、「災害と鍼灸」シンポジウム資料などを東北大学図書館に寄贈することが賛成多数で承認された。また、日本伝統鍼灸学会や社会鍼灸学研究会にも呼びかけることとなった。

8.学会雑誌データベースドメイン統一について

清水広報部長から、現在学会雑誌のデータベースにおいて3つのドメインが混在しており、SEO対策の観点からもJ-Stageに統一したいと考えており、次回理事会の審議事項に挙げたいとの申し入れがあった。審議の結果、次回理事会における審議事項とすることが賛成多数で承認された。各自HPの学会雑誌の部分を確認し、現状を把握しておく。

9.新顧問について

正副会長に一任されていた顧問と参与について、新たな顧問として矢野忠先生に委嘱することが発表された。審議の結果、新顧問について賛成多数で承認された。

10.入会審査（平成24年6月～7月申し込み分）

平成24年6月8日から平成24年7月28日までの間に入会申請のあった者に対して入会審査を行った結果、全員の入会が賛成多数で承認された。

以上、全ての審議事項について賛成多数で了承された。

以上をもって平成24年度第2回理事会の議事をすべて終了した。